



絵・杉浦 孝明

小田原ちようちん夏まつり

年々彩々

「小田原ちようちん夏まつり」が七月二十九日(土)、三十日(日)の両日、神奈川県小田原市の小田原城址公園で行われる。夜にはお堀端に並んだ二千個以上の

7月号の目次

レジャー 2・3面

- 悠遊 鉄道の旅 八王子・高尾山



- ぶらっと東京街角 ミュージアム

健康 4・5面

- 新口コモをとめよう
- 心臓PART4「異端児」
- 健康クッキング

カルチャー 7面

- この人と1時間



酒井 直隆さん

特集 8・9面

- 戦争記録 学童疎開 若き教師の回想
- 逸品「太陽のタマゴ」
- 映画・演芸

生活 10・11面

- Sports 輝きの記憶
- 新司法八方 弁護士の日
- 万葉のこころ
- 景気の道しるべを読む
- 昭和の風景
- 下重麻子の出会ったひとびと

東京新聞/駅前界限 13面

- 紙面が語る 衝撃のあの日
- 駅前界限 「東急世田谷線上下町駅」

読者参加 14・15面

- 脳トレ ひろば ナンプレ …おもしろパズルの古今東西 …あゝ漢ちがひ
- 楽しい俳句

首都圏 16面

- 名水紀行 「美術の森緑地」

今月のプレゼント 16面

水面に映る幻想的な光

ちようちに明かりがともされ、水面に幻想的な光景が映し出される。「エッサ エッサ エッサ ホイサッサ…」との童謡・お猿のかこやが、ぶら下げたのは「小田原ちようちん」。ご当地発祥のこのちようちん、蛇腹になつていて折り畳みOKなどと江戸時代に旅人の間で大人気となった。歴史に名を残す小田原ちようちんをシンボルにした一大イベントを―と意気込みで始まったまつりは、ことし二十六回目を迎える。お堀周辺には地元小学生たちが作ったちようちんが飾られ、夕刻には一斉にともされて幻想的な雰囲気になる。初日は小田原ちようちん踊りコンクール、盆踊り。二日目は小田原城太鼓合戦、自治会みこしパレードなど熱気あふれるイベントが予定されている。小田原城址公園へは小田原駅東口から、徒歩約十分。問い合わせは、同市観光協 会TEL0465-237500

街の隅

四十年來の親友の奥様が亡くなられた。十年も難病と闘って来たという。彼は七十年代後半。記者だったころは毎日仕事と酒に明け暮れ家庭を顧みる余裕もなかった。それが記者の宿命だと思ひ込んで、だが退職した後、いかに奥様に迷感にかけていたかハタと気づく。以来彼は感謝の思いを込めて寝たきりの奥さまの看病と身の回りの世話に明け暮れてきた。「ちよちよもつらくなんか無いよ。妻が喜に生きたい。」

ふ顔を見るのがとてもうれしくなれた。十年も難病と闘って来たという。彼は七十年代後半。記者だったころは毎日仕事と酒に明け暮れ家庭を顧みる余裕もなかった。それが記者の宿命だと思ひ込んで、だが退職した後、いかに奥様に迷感にかけていたかハタと気づく。以来彼は感謝の思いを込めて寝たきりの奥さまの看病と身の回りの世話に明け暮れてきた。「ちよちよもつらくなんか無いよ。妻が喜に生きたい。」

日々大切に 聞かせるよきで、わが家も老いの二人暮らし。幸い今は痛いもの、苦しいもの、いつか何とかが暮らしているが、いつかはどちらかが先に(多分私か)逝くことになる。その時の悲しみ、孤独感を思うと胸が沈む。せめて悔いのないよう今を大切にしたい。

(哲)